

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100140		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里城栄 4階朗々		
所在地	長崎市城栄町11-2		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業者が商店街の一角にあるという特色を活かし、ご入居者の要望に応じて個別に買い物や散歩に出かけています。商店街の方も顔見知りとなり、声をかけてもらったりと馴染みの関係を築いています。地域・事業所の行事へお互いに参加し交流を深めています。また、年間外出行事の他に天気の良い日や四季折々の花が咲く頃には、手作り弁当を持って、公園や海などに出かけたりすることもあります。ご入居者の得意分野を最大限に引き出せるような環境づくりを心がけています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協力体制を図っています。また、訪問診療で定期的な医師の往診を受け、充実した医療との連携のもと健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人との連携を取ることで、介護計画等に医師、看護師の意見、助言を取り入れ、利用者、利用者家族はもちろん、事業所職員にとっても安心ができるサービスを提供している。また法人の関連施設との合同の研修会や同法人以外の提携施設との勉強会、研修会などはさまざまなテーマで行われており、職員の知識向上に繋がっている。事業所は地域密着型のサービスを目指し、運営推進会議にて地域の方に多数参加してもらうほか、管理者は地域の商店街に向けて認知症に対するセミナーを開催するなどして地域との関係強化に向けた取り組みを行っている。事業所は商店街の一角にあり、商店街の方々も高齢者にやさしい商店街、まちづくりを目指していることもあり事業所運営に協力的であることは事業所の強みといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人のグループホームが作った理念を基本に、開設時に職員全員で独自の理念を考えました。毎日朝の申し送り時に職員で唱和し理念の共有・実践に取り組んでいます。	法人の理念、グループホームのユニット共通の理念、ユニット毎の理念を毎朝唱和している。ユニット毎にも理念があり、職員、利用者が共に人生を歩んでいけるように意識しながらサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の時に地域の年間行事予定を教えて頂き、積極的に参加しています。又、商店街の一角に立地しているので日常的な散歩や買い物で外出時に交流を深めています。	地域の商店街、自治会は事業所に協力的であり、運営推進会議にも地域の関係者が多数参加している。管理者は地域住民向けの認知症のセミナーを行っている。地域から利用されている方も多く、買い物や散歩時の挨拶など日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌や掲示物を通じて、情報発信をしています。又、ボランティアの受け入れも随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しており、参加者は地域の代表者、包括支援の方やご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行っています。出席者の方々や家族の方々の助言や要望を頂き地域交流に繋げています。	運営推進会議については、2ヶ月に1度開催されており、所定のメンバーで構成されている。活発な意見交換が行われており、家族代表から出た意見が反映された例では、転倒時の対策として手摺等に保護材の設置が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を作成し、包括支援センターの方より市役所に提出して頂いています。又、介護相談員の受け入れも行っています。	運営推進会議の報告書を市へ提出している。年1回の介護支援相談員の受入を行っている。管理者は長崎市認知症グループホーム協議会の理事であり研修の開催など県の関係者と日頃から連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみベッド柵やセンサーマットを必要とし、拘束しないケアに努めています。又、身体拘束の勉強会等で職員の意識の向上に取り組んでいます。	身体拘束の研修については法人全体研修の他、事業所独自でも虐待防止委員会を立ち上げており、その活動が行われている。玄関の施錠等はせず、利用者が外出するときはついていくなど見守りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて虐待防止委員会を設置し、研修や勉強会への職員の参加を促し、意識の向上に努めていますご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉等に注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者の中には成年後見制度を活用されている方もおり、関係する資料等を職員へ配布し、勉強会にも出席しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個室にて十分な時間をとり、資料を用いながら分かりやすい言葉で説明を行い、納得、理解が出来るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。ご意見箱の設置や、家族へのアンケートにて要望を伺い、伺った意見、不満、苦情はユニットミーティング時や適宜カンファレンスを開き改善策を話し合っています。	家族が面会に来た時は必ず声かけをし、意見要望を聞いている。また運営推進会議にて利用者、家族の意見を聞いたり、家族アンケートを実施している。出された意見は職員会議で話し合わせ、運営に反映させるとともに、結果を家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティングや業務中に意見や提案が出た場合は管理者へ報告しています。又、管理者は個人面談等を行い、職員からの意見を聞く機会を設け、運営に反映させています。	日々の業務の中で、意見要望があればいつでも提案している。また会議の場では活発な意見交換があり、管理者は年2回程度個人面談を行い意見、提案を聞く機会を設けている。利用者の環境改善等意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。又、職員一人ひとりの特性が生かされる役割を見出し、意欲的に仕事に取り組める環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示し、参加を促しています。又、現場で抱える問題を担当者が勉強会協議の場で提議し、勉強会に取り上げ、職員研修、技能・意識の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員はGH連絡協議会の勉強会や交流会に参加させて頂いています。又、互いの運営推進会議に参加したり、提携病院との合同勉強会の開催等、包括的なネットワーク作りやサービス、事業内容の質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始前には、ご本人に対する情報を集めてアセスメントを行い、本人やご家族の要望に応えられるように努めています。又、暮らしの中でいつもと違う表情や変化があれば、落ち着いて話ができる所で伺えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	挨拶や笑顔での対応等、ご家族に気軽に話して頂ける関係や、環境作りに取り組んでいます。又、ご家族の表情等に注意を払い要望を共有し、思いを感じ取れるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所や関連施設のサービス内容の説明を行い、ご本人、ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の要望としているものを知る為にも、毎日の生活の中で、小さな変化を見逃さないように努め、その人らしさのある生活を職員全員で考え、共に支えあう関係を大切に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いの中で家族でしか満たされないことがある時は、本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支え合えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からご入居された方も多く、散歩や商店街への買い物の機会を多く持ち、人とのふれあいを大切にしています。又、近所のなじみの店に買い物に行き、話をする等して本人のなじみの関係が継続するように努めています。	利用開始時に、担当者が利用者、家族から話を聞き生活歴の把握を行っている。面会に制限はしておらず、以前の習い事の仲間との面会を支援したり、買い物、散歩など利用開始前と同じことができるような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事、ご入居者同士の会話等の機会を提供し、よりよい関係が築けるように支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の診療所へ入院、施設へ転居されている方もおられる為、時折ご入居者と職員が面会に行ったり、イベント時に顔を合わせ挨拶をするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者との会話の中から希望・意向・悩み等を伺ったり、ご家族より情報を収集し環境作りに努めています。又、意思疎通が困難な方は複数の意見の中から提供し、自己決定が出来るように本人本意で検討しています。	日常を共に生活していく中での会話から利用者の意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を収集したり、日頃の表情、様子、しぐさなどから何が本人本位であるか職員が意見を出し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からアセスメントを取り、日常生活の会話の中でこれまでであった様々な出来事を知ることが出来る様に努めています。又、職員はアセスメント内容を把握し、その方らしい趣味や生活が出来るような対応を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合った過ごし方や、趣味や特技を活かしたその人らしい姿を把握出来る様に努めています。又、記録物に記入し全職員が情報を共有し、統一した支援によって安心した生活が出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ご本人やご家族に要望を伺いミーティング時に検討し意見交換の場を設け介護計画を作成しています。又、プランの期間に応じてご入居者の状態変化や状況の変化を把握し、見直しを行っています。	介護計画は担当職員作成の利用者、家族の要望、意見を取り入れた計画をもとに、職員会議の場で参加職員全員で検討されている。計画には医師、看護師の意見を踏まえながら作成されている。計画期間は3ヶ月だが随時の見直しも行われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子・変化・健康状態・ご本人やご家族の言葉等を記録に残し、全職員が情報を把握・共有しケアの見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。又、その時の状況に応じて通院・送迎等も行ない安心した生活が出来るよう柔軟な支援サービスに取り組んだ対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街での買い物や散歩する事より、地域の方々と交流する機会が増え、地域の方々のご協力を頂けるよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3~4回、定期的に往診があります。必要に応じご家族が診療に立ち会われています。かかりつけ医の継続は行っていますが、提携医療機関以外は原則としてご家族に対応して頂いています。	母体が医療機関であり、担当医の往診が月4回程度あるので、家族の同意を得たうえで提携医療機関をかかりつけ医としているが、家族の意向を優先している。母体の医療機関以外を受診した際の家族からの結果報告を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職は、常に情報を共有し合い24時間体制で、主治医・看護師・介護職が対応出来るような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と互いに情報の提供を行っています。又、定期的に面会する事で状況把握に努め医療機関と相談しながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院が出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心してサービスを受けられるよう職員は体調や病状の確認・急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。又、重度化や終末期の方針として看取りに関する指針を作成しており、早い段階で話し合いの場を持つように取り組んでいます。	職員は終末期ケアについての勉強会、研修会に参加している。利用開始時に看取りの指針を説明し、看取り介護が行われる場合は再度説明し、家族に同意を得ている。ケアについては医師、家族の意見が反映された看取り介護計画書が作成され、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時に落ち着いて対応出来る様、取り組んでいます。又、急変時対応マニュアルを作成しており、全職員が周知出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署、立会いの元避難訓練を実施しています。又、勉強会に参加する事で知識を深めています。地域の方々へも運営推進会議にて訓練への参加を案内し、協力体制に努めています。	年2回、消防署立会のもと火災を想定した避難訓練を実施している。近所に住んでいる職員も多数おり、緊急時連絡網は整備されている。しかし前年は夜間想定訓練が行われておらず、地域の方に参加を呼び掛けたものの、一緒に実施するには至っていない。	災害はいつ、どの時間帯に起きるかわからないので、さまざまな事態を想定し、職員だけの誘導の限界を踏まえ地域の人々の協力が得られるようにし、一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人の理念にもあるよう「人権と尊重を守りましょう」との理念に基づき言葉かけや対応は、個々人の尊厳を損ねないように配慮しています。	介護日誌等の個人情報については事務所の所定の場所にて管理しており、職員に対しては入社時に守秘義務に関する誓約書を交わしている。利用者への言葉かけについてあからさまな介護の言葉になる場合がある。	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向けた事業所全体での取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いや要望を尊重し、自己決定が出来るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望を聞き入れ、その方に合ったペースを大事にしながら支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問美容サービスを利用しています。又、お化粧品をされる方と一緒に化粧品を選びに行く等、その方に合ったお洒落が出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の果物や誕生日にはご入居者の好む料理を献立に取り入れています。又、食事の準備や後片付け等一緒に行い、同じテーブルで楽しく食事が出来るよう努めています。	行事の際の外出や弁当、出前を取るなど食事の楽しみがあり、利用者の嗜好を把握し、日々の献立に取り入れている。職員は利用者と同じものを一緒に食し、利用者とともに準備、後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、食事摂取量を個別に調整しています。又、食意低下の場合にはお好きな物を提供し、栄養バランスが取れるよう支援しています。1日に必要な水分量の確保にも気を配り、好みのものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行っており、ご入居者のレベルに合った口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成・活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握出来ています。又、ご本人の負担にならないようにトイレの誘導や声掛けを行い、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行っています。	排泄チェックシートを利用し、職員全員で利用者の排泄パターンを把握し、声かけを行っている。支援を行うことにより、日中は紙パンツから布パンツで過ごせるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを作成し、排便状況を把握しています。又、排便コントロールが難しい方は、乳製品・繊維の多い食物や薬などで調整を行いコントロールが上手く行くように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望の時間帯やお湯加減を把握し、入浴剤を使用するなどし、ゆっくり入浴して頂けるよう支援しています。	入浴日、時間帯は決まっておらず、本人の希望が出た場合は柔軟に対応している。同性介助を行い、車いすを利用している利用者には複数で介助している。入浴を拒否される方には時間をおいたり、声かけを行う職員を代えるなどして入浴してもらえよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう、体操や散歩など日中帯に活動を促す事により生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりの体調や希望を考慮し、適度な休息が出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報を入れ、いつでも職員が確認出来るようにしています。薬セットや配薬の際は、ダブルチェックを行い確認しながら行えています。又、薬の変更時は申し送りや記録に残し、全職員が情報を把握・共有出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を活かしたその方に合った作業や、出来る事をお願いし文化祭などに作品を出品し、持っておられる能力を活かし張り合いや喜びとなるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、散歩や買い物へ出掛けるように心がけています。又、季節感が味わえるような企画を立て行楽地や戸外に出かけられるように支援しています。	年間の行事予定があり、車いすの利用者を含めた全ての利用者の外出支援を行っている。行事以外でも利用者の意向により随時、ドライブ、買い物、散歩などの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を預かり、事業所が管理している方でも買い物の際はご自分で支払って頂けるように手渡し、支払いが出来るよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ又、ご家族との協力を得ながら家族との絆を大切にしたり取り組みを行い、自宅へ電話を掛けるなどの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁を利用した掲示板に、ご入居者の作品を展示したり四季折々の装飾をご入居者と共に作成し、飾りつけなどアクセントを持たせた空間作りを行っています。	共用空間の温度、湿度の管理は温度計、湿度計を用いて随時職員が調整している。照明はオレンジ色の柔らかい光のものをを使い、日差しが入る日はなるべく外の光を取り入れている。空気の入換えも随時行い、飾り物などは季節感を出すようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルで貼り絵や折り紙をされたり、ソファではテレビやお好きなDVDを鑑賞されたり、洗濯物たたみや編み物など一人ひとりが過ごしたい場所でお好きな事をされ、過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が今まで使ってきた馴染みの家具や、ご家族とのアルバムなどを持ってきて頂いています。又、家族との写真を居室に飾り、いつでも思い出せ楽しい話が出来るように努めています。	居室への持ち込みには特に制限をしていない。趣味の道具や家族写真、鏡台などなじみのものが持ち込まれている。居室の掃除はできる方は利用者が行っており、それ以外は職員が毎朝行っているがほこりが目立つ時がある。	利用者が居心地よく、落ち着いて過ごせるよう居室の掃除をこまめに行う仕組みづくりを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間で転倒に繋がる原因が無いかをチェックし、身体機能の変化などの状態に応じた福祉用具の利用などにより、生活環境の改善に努めています。又、残存機能を活かした介助に努め自立した生活が送れるような支援をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100140		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里城栄 5階陽々		
所在地	長崎市城栄町11-2		
自己評価作成日	平成24年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が商店街の一角にあるという事と近隣からの入居者の方が多いという事で、商店街の方とは顔見知りが多く声をかけてもらったり馴染みの関係が築けています。又年間行事のほかにも天気の良い日には、戸外に出て気分転換を図るようにしています。医療面では、母体が医療施設である事から、皆さんに安心して頂けるように主治医・看護職との協力体制を図っています。又訪問診療で定期的な医師の往診を受け、充実した医療との連携のもと健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人のグループホームが作った理念を基本に、職員全員で独自の理念を考え作りました。毎日の朝の申し送り時に職員で唱和して共有紙取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議時に年間行事を教えて頂き、地域の行事に職員共々積極的に参加しています。又グループホームの行事にも地域の方に参加して頂いています。商店街へも日常的に買い物へ行ったり、グループホームの玄関で日向ぼっこをして通る人に声かけを行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を通じて情報発信をしています。又、ボランティアの受入も随時行っています。認知症についての勉強会を地域の皆さんへ随時開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況や活動内容について報告して、意見を聞きます。また、ご入居者やご家族、地域の皆さんの意見も聞き、サービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議報告書を作成し包括支援センターの方より市役所に提出して頂いています。また、介護相談員の受け入れも行なっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所、内外の勉強会に参加し、拘束について話し合い、身体拘束しないケアを目指しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を発足させ、現在は改善スピーチロックに取り組み、全職員で、自分を見つめ、自分を振り返る時間を作り虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の勉強会に参加し、より知識を深め要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個室にて十分な時間をとり資料を用いながら分かり易い言葉で説明を行い、納得理解出来る様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族懇親会で意見を伺う機会を作っています。ご家族の面会時も常時、意見要望がないかうかがっています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティングや業務中に意見提案が出たら、随時話し合いながら信頼関係を築くようにしています。又、管理者は個人面談などを行い、職員からの意見を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。また、職員一人ひとりの特性を見出し、向上心をもって仕事ができる様に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示しています。また他部署への研修を行いスキルアップにつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員はGH連絡協議会の勉強会や交流会に参加させて頂き、他事業所との交流を図っています。又、互いの運営推進会議に参加し、包括的なネットワーク作りやサービスの質を向上させていく取り組みも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前には、施設を見学して頂き、気に入ってもらい入居して頂くようにしています。また、ご本人に対する情報を集めて、アセスメントを行い本人やご家族の要望に応えられるように努めています。暮らしの中でいつもと違う表情や変化があれば、落ち着いて話ができる所で伺えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	挨拶や笑顔での対応などでご家族に気軽に話して頂ける関係や、環境づくりに取り組んでいます。又ご家族が困っている事や不安な事がないか確認しながら、ご家族の表情・態度に気を配り思いを感じ取れるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所のサービス内容の説明を行い、ご本人・ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の要望としているものを知る為にも毎日の生活の中で小さな変化を見逃さない様に努め、それを職員全員で考え、共に支えあう関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いの中でご家族でしか満たされないことがある時は本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支える様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からご入居された方も多く、商店街への買い物の機会を多く持ち人とのふれあいを大切にしています。また、若い時一緒にの趣味をお持ちの方が遊びに来て、遠慮しないような環境づくりをし、馴染みの人が途切れないように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生会や合同行事など皆さんと会話する機会を多く持ち、お互いふれあうようにしています。また、昔聞いた事のある音楽や昔話などを、共有し楽しく過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の診療所に入院、施設に転居されている方もおられる為、時折ご入居者と職員が面会に行っています。また、スタッフ間で情報交換など行い継続的な付き合いを心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者との会話の中から希望、意向、悩み等を伺ったり、ご家族より情報を収集し環境づくりに努めています。また意思疎通が困難な方は複数の意見の中から提供し、自己決定が出来るように本人本意で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方より話を聞いたり、本人の日常生活の会話のなかから、これまでの暮らしやできていた事などを把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方やその人らしい姿を把握出来る様に努めています。また記録物に記入し全職員が情報を共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時ご本人、ご家族に要望を伺いミーティング時に検討、意見交換の場を設け介護計画を作成しています。またプランの期間に応じてご入居者の状態変化や状況に応じて見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日々の様子、変化、健康状態、ご本人やご家族の言葉等を記録に残し全職員が把握できる様、情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況やご家族の要望に応じて通院送迎を行ない、医療連携体制を活かし対応しています。他の病院受診には、移送サービスなど利用しその時の状況に応じて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街での買い物や散歩する事より、地域の方々と交流する機会が増え、地域の方々のご協力を頂けるよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、原則としてご家族対応ですが、受診の前には、ご家族や主治医に連絡を取り助言いただきながら、適切な医療が受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人施設の看護職とも情報を共有し24時間体制で主治医、看護師、介護職が対応できるような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と互いに情報の提供を行っています。又、定期的に面会し状況把握に努め、医療機関と相談しながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心してサービスを受けられるよう職員は体調や病状の確認・急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。重度化や終末期の方針として見取りに関する指針を作成しており早い段階で話し合いの場を持つよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時に落ち着いて対応が出来るように訓練しています。又、緊急時対応マニュアルを作成しており、緊急時の対応が24時間出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い初期消火、通報、避難誘導を行っています。又、勉強会を開催し、知識を深めています。地域の方々へも運営推進会議にて訓練への参加を案内し、地域との協力体制に努めています。同時に消防署からの指導も受けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人権と尊厳を守りましょう」と掲げている理念に基づき、言葉かけや対応は一人ひとりの誇りを損なわないように配慮しています。ご入居者に関わることは、ご入居者のいない所で申し送るようにし、プライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いを尊重し、取り入れ、自己決定ができるような声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や要望に合わせて、出来る限りその方のペースを大事にしながら支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回来られる美容サービスを利用したり、家族の方に散髪して頂いています。又、お化粧をされる方と一緒に化粧品を選びに行ったり、その日着たい服を自身が選べるような支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者が好む料理を提供出来る様、献立に取り入れています。誕生日や行事の際は、ご利用者の好きなメニューや季節感の味わえる食事を提供しています。準備や食器拭きも一緒にして、同じテーブルで職員も食事をしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に、体重測定を行い食べる量を個別で調整しています。又、食思低下の場合、補食として好きな物を摂って頂き栄養バランスが確保できるよう支援しています。水分量は一日1500ccを目標に各利用者に応じたものを提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導をしており、ご入居者の力に応じて職員が見守り、介助を行なっています。また必要におうじて義歯の洗浄消毒を行なっています。ハブラシ、コップの消毒は毎日行ないます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、排泄パターンを把握して、本人の負担にならないようにトイレの声掛けや誘導を行ない、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを作成し、排便状況を把握しています。排便コントロールが難しい方は、乳製品、繊維の多い食物や飲料の提供を行なっています。朝の体操も全員参加で行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望の時間帯や好むお湯加減を把握し、また入浴剤を使用するなどゆっくり入浴出来る様に支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るように、なるべく日中の活動を促がし、生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりのその日の体調や希望等を考慮し、日中も適度な休息が出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬情報書を入れ、いつでも職員が確認できるようにしています。薬セットの際も、各利用者確認表に基づいて行いダブルチェックをしている。薬変更の際は、確認表の差し替えをその都度おこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を活かした、その方に合った作業や出来ることをお願いしたり、本人また家族からの要望を取り入れたりしています。出来ること、できそうな事を試行錯誤しながら支援してます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて散歩や買い物へ行ったり、年間の企画をたて県内の祭事や行楽地に行ったりと季節を感じて頂ける様支援しています。また家族とも相談し本人の希望にそって外出を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を預かり、事業所が管理している方でも、買い物の支払いの際はご自分で支払って頂けるように手渡し、支払って頂くなど支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じて、ご家族の協力を得ながら自宅へ電話をかけられるように支援しています。また手紙や贈り物などもメッセージが理解できるよう説明し支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、季節の行事の写真や貼り絵を飾ってあります。照明は目にやさしい昼光色を取り入れています。浴室は季節の花の香りの入浴剤を入れて楽しんで頂いています。食事の時間は癒しの音楽をながしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで新聞折りをされたり、ソファーではテレビを観たり洗濯物たたみ等をして過ごされています。一人ひとり過ごしたい場所でゆっくりとくつろがれています。ラジオや音楽も楽しんで頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が今まで使用してきた馴染みの家具などをご家族へ持って来て頂いています。また、外出時の写真やご家族の写真を居室に飾り、いつでも思い出せ、楽しい話が出来るように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間で事故に繋がる原因がないかチェックして、身体機能の変化などの状態に応じて生活環境の改善に努めています。又、利用者にとって出来る事は自立出来るように支援しています。		